

2022年9月1日

電通と電通デジタル、
AIの活用による「創造力の拡張と広告クリエイティブの効果最大化」に向けて
東京大学AIセンターと共同研究を開始

株式会社電通（本社：東京都港区、代表取締役社長執行役員：樽谷 典洋、以下「電通」）と株式会社電通デジタル（本社：東京都港区、代表取締役社長執行役員：川上 宗一、以下「電通デジタル」）は、国立大学法人東京大学次世代知能科学研究センター（所在：東京都文京区、センター長：國吉 康夫、以下「東京大学AIセンター」）^{※1}と、AIの活用による「創造力の拡張と広告クリエイティブの効果最大化」に向けて共同研究^{※2}を開始しました。

電通と電通デジタルは、これまでも先んじて広告クリエイティブにおけるAIソリューションの開発に取り組んでおり、AIコピーライターやCXを自動化するAIの導入など、多くの実績を残しています。今回さらに、広告や顧客体験領域におけるAI活用のリーディングカンパニーとしてのポジションを確固たるものとするため、本日付で本共同研究において中心的な役割を担う横断組織として「電通クリエイティブインテリジェンス」^{※3}を発足させることにしました。

dentsu creative intelligence

近年、デジタル広告の運用・制作では盛んにAIが活用され、コピーの配信結果予測や効率的な広告効果を得るためのAI技術の研究も進んでいます。しかし一方で、今までにないアイデアを生み出し、人の心を動かすような創造性や顧客体験の質を向上させるAIの研究はあまり進んでいない状況にあります。

とりわけ、広告や顧客体験の質をさらに向上させるためには、成果を収めた広告表現を再生産する手法だけでなく、効果的なクリエイティブの創造性を解明し、理論体系を構築した上でAIによる革新的な手法を開発していく必要があります。

今回の東京大学AIセンターとの共同研究では、AIの活用による「創造力の拡張と広告クリエイティブの効果最大化」を目指し、こうした観点からの研究を推し進めていきます。電通と電通デジタルは、「電通クリエイティブイ

ンテリジェンス」の機能を「Augmented Creativity Unit（オーギュメントドクリエイティビティユニット）」と「Data Creativity Unit（データクリエイティビティユニット）」の2つに分け、研究開発および実装を進めます。前者では、クリエイターたちが持つ知見や経験値・感性などの創造的な思考プロセスのAIによる体系化とその強化に取り組みます。また後者では、AIを活用した高度なデータ解析に基づく広告クリエイティブの分析や効果予測、自動生成技術の研究を推し進めると共に、これまでにないソリューションの開発やクリエイターの発想支援にも取り組みます。そして、これら2つの研究を有機的に融合させることで、より豊かな広告や顧客体験の創出につなげていきます。

- ※ 1 現状の人工知能技術の枠組みとその限界を超え、真に人間のためになり、将来の社会、産業、経済、文化、学術を駆動する新たな次世代知能科学体系の構築と応用に取り組む研究組織。(<https://www.ai.u-tokyo.ac.jp/ja/>)
- ※ 2 本共同研究では具体的に「広告におけるクリエイティビティ・訴求力に関するAI研究」および「クリエイティブの科学に向けた探索的研究」をテーマとする。
- ※ 3 電通と電通デジタルが発足させた横断組織。テクノロジーによるクリエイティブの「創造性」の拡張/変革を目的とする「Augmented Creativity Unit（オーギュメントドクリエイティビティユニット）」と、データとテクノロジーでクリエイティブの「効果」を上げる「Data Creativity Unit（データクリエイティビティユニット）」で構成。

以上

【リリースに関する問い合わせ先】

株式会社電通 広報オフィス 広報部
松島、王、抱井
Email : koho@dentsu.co.jp

【事業に関する問い合わせ先】

電通クリエイティブインテリジェンス
並河、和田
Email : creativeintelligence@dentsu.co.jp